

Ikemi Nozue

野末 あけみ

# のずえ明美

県会・高津区

党高津区県政対策委員長

私の歩みと決意

**プロフィール** 1964年生まれ。社会医学技術学院作業療法学科卒業。みさと協立病院で作業療法士として勤務。新日本婦人の会で子どもの医療費無料化に取り組む。地域でボランティア活動に励む。家族は夫、子ども三人。



子育て・教育に情熱

みなさん、こんにちは。久地4丁目に住んでいる、のずえ明美と申します。神奈川県議会議員を勇退される石田和子さんの議席を引き継ぐ活動を始めました。

私の活動の原点は、医療従事者として、命と健康を守る活動です。ロシアのウクライナへの侵略により、多くの尊い命が奪われています。戦争は命と健康をないがしろにする行為であり、絶対に許せません！

ロシアのウクライナ侵略に強く抗議し、侵略行為は即時停止、軍隊の即時撤退を、一緒に求めていきましょう。

新型コロナウイルス感染症に対する神奈川県への対応は、感染症法を逸脱した自主療養に象徴されるように、県民の命を軽視するものです。検査体制や保健所体制の強化、十分な補償制度などにより、「感染症に強い」「命と暮らしを守る」神奈川県に変えていきましょう！私は一人ひとりが主人公の社会をめざしていきます。みなさんに県政を身近に感じていただけるよう働いていきます。どうぞよろしくお願いたします。

日本共産党





幼稚園時代の、のずえ明美＝1969年冬、岩手県陸前高田市。東日本大震災の津波被害で周辺は全て流されてしまいましたが、この幼稚園の門柱だけが残っていたそうです。

## 生い立ち

### ―父の転勤で各地に転居

私は、1964年、茨城県西部の利根川に面した猿島郡境町で生まれました。父親が日本道路公団職員であつたので、千葉県銚子市(市内で2回転居)、岩手県陸前高田市、埼玉県春日部市(市内で2回転居)と、ひんぱんに転居を経験しました。

そのころの日本は、「高度経済成長期」で、高速

千葉県銚子市の犬吠埼灯台



道路が延長され、地方にも大きな橋や有料道路が建設されました。その建設事務所や管理事務所が、父の職場でした。両親は、子ども2人を抱えての転居は、気苦労も多かったと思いますが、私は多くの友人に出会い、豊かな自然の中で過ごした事が心の財産となっています。

## 経済的に自立できる生き方を ―作業療法士に

高校生となり、将来の職業や生き方について考えるようになりました。経済的に自立できる職業として、教師と医療従事者をイメージしました。人と違ったことを好む性格なので、まだ日本では資格者数の少なかった作業療法士をめざすことにしました。

作業療法士は、国家資格を持つたりハビリテーション技術者です。料理、着替え、文字を書くなどの応用的動作能力と、地域活動への参加、就学、就労などの社会的適応能力を維持・改善し、『その人らしい生活』の獲得を目的に、リハビリテーションを行う専門職です。

高校卒業後、社会医学技術学院の作業療法学科に入学。学院では、国家資格めざし、知識や技術を習得するための授業を受けました。同時に、社会での作業療法士の認知を広げ、病院や施設でのポジションを確立し、職業人として自立することをめざすように指導を受けました。

自分で考えて決めた行動には責任を持つ。その成果により良い評価を得られる。この学院の指導方針が、その後の職業人としての働き方に影響を与えています。



## のずえさんは パワーのある方



元みさと協立病院総看護師長  
**志田栄里子さん**

みさと協立病院の精神科DC(デイケア)開設、精神に障害をもった患者さんが、地域で安心して暮らせるように、グループホーム作り、就労支援活動に取り組んだ、のずえさんの功績は大きいです。

入院、退院、DC通所と、のずえさんが支えてこられた患者さんが、今も地域で、仲間と支え合い生活しています。のずえさんは、キリリと前向きに、物事をやり遂げるパワーのある方で、世の中を変えるために必要な方です。心から応援します。



みさと協立病院時代の、のずえ明美。

## 民医連・みさと協立病院の 精神科病棟に勤務

1990年、民医連(全日本民主医療機関連合会)に加盟する東京勤労者医療会の、みさと協立病院に入職しました。作業療法室を開設し、精神科病棟で、急性期の患者さんの治療にも携わりました。

みさと協立病院は、精神科病棟と老人病棟で構成されている病院で、いわゆる社会的弱者で制度のはざまにあり、自分らしく生きることが困難な患者さんや家族が多く存在していました。入院治療により病状が安定して退院するも、地域生活を支える制度がせい弱で

あったり、社会での病気への理解が低いことにより、病状が悪化し、再入院となる患者さんが多くいました。

患者さんの人権を守り、無差別・平等の医療を展開することの難しさに、何度でも直面するも、やりがいを感じる毎日でした。

その医療活動を追求しながら、病院の経営を守るためには、社会保障制度の充実や、医療制度の改悪を阻止する活動が必要と、強く思うようになりました。

## 仕事も社会活動も前向きに ―尊敬する職員から声をかけられ日本共産党入党

民医連職員として社会保障充実の運動や、首長選挙にも積極的に関わるようになる中で、困難な状況の中でも、つねに前向きに周囲の職員や地域の方と手を携えて生き生きと活動しているのは、日本共産党の党员であると知りました。

その党员の職員たちに「飯田(旧姓)ちゃん、行くよ!」と声をかけられ、昼休みを早めに切り上げ、車にハンドマイクを積み、宣伝しながら地域をよくまわりました。今からすると、ずいぶん

自由な活動が許されていた時代でした。党员である職員は、信念をもって仕事も社会活動にも取り組み、「私は共産党の旗を担っているんだよ」と堂々とのべ、その姿に驚きとともに尊敬の気持ちも湧いてきました。

その尊敬する事務職員と看護職員から、入党の話を受け、民医連職員としてだけではなく、日本共産党の党员として社会や政治と向き合う決意をし、1998年7月、入党しました。



## 子育ての悩みに声を かけてくれた、 のずえさん



ママ友だち

### 佐々木美由紀さん

秋田から来て、知らぬ土地での子育てに悩んでいた時、声をかけてくれたのが、のずえ明美さんでした。以前より、色々な地域活動をされていた、のずえさんに賛同し、私も福祉に携わりながら地域の事、子どもの医療費無料化などの活動に参加させていただきました。しかし、課題はまだたくさんあります。

誰もが安心して子育てでき、誰もが住みやすい町づくりをしていただけるよう、のずえ明美さんに期待します。



▲柳沢厚労相(当時)に乳幼児医療費無料化を訴える新日本婦人の会の高田公子会長(当時)と、子どもを連れた母親たち。右が、のずえ明美＝2007年5月30日、国会内。「しんぶん赤旗」提供。

◀子ども医療費助成の拡充を求めて川崎市役所前で宣伝する、のずえ明美(左)＝2019年6月27日

## 川崎市で子育て

### 子ども医療費助成拡充をライフワークに

みさと協立病院は、結婚・出産に伴い退職し、川崎市での子育てがスタートしました。夫は、みさと協立病院で出合った精神科医の野末浩之で、現在は、神奈川民医連の会長をしています。

私は、新日本婦人の会高津支部に加入し、川崎市の子育て環境改善の活動に加わりました。子ども・教育部会で、おもに子どもの医療費助成制度を拡充する運動を担うことになりました。川崎市や神奈川県との交渉に、妊娠中の大きなお腹で参加し、国会行動にも子どもを連れて参加しました。

子どもの命と健康を守る医療費助成制度の拡充は、母親だけではなく、多くの人々が求めている制度であり、私のライフワークともなっています。

また、高津区内では、当時川崎市議

## 東日本大震災

### 陸前高田市へ災害支援ボランティア

2011年3月11日の東日本大震災と、それに伴う福島第一原子力発電所の事故は、人生のターニングポイントとなりました。陸前高田市が、市民7人に1人が亡くなるというような、じん大な被害を受け、私の大切な思い出の地が変わり果ててしまったことが大きな衝撃でした。支援物資を送る

会議員であった石田和子さんと地域の様々な課題に取り組みました。我が子も通っていた久地小学校の生徒数が急増したことによる新校庭設置では、石田市議は現地に何度も足を運び、議会でも取り上げていただき、小学校では市内初の歩道橋で渡る校庭が完成しました。

横断歩道を渡る小学生のお子さんを持つ保護者が、事故により亡くなってしまった危険な溝の口交差点の問題では、横断歩道の位置や照明、信号機の点滅時間などの改善を要望し、安全性を高めることができました。石田和子さんの、つねに地域住民の困りごとに寄り添い、ねばり強く要求実現のために活動する姿に感謝するとともに、日本共産党の議員さんをとて身近に感じられるようになりました。

だけでなく、南相馬市や陸前高田市での災害支援ボランティア、高津区内の放射能測定、脱原発運動にもとりくみました。

どの被災地でも、住民の苦難に寄り添い、要求実現のために、ねばり強く国や自治体に働きかける日本共産党の姿がありました。地方議員と国会議員の



## 地域の保育・教育・福祉に取り組んできた、のずえさんに期待します



久地診療所 所長  
喜瀬守人さん

地域医療に長く携わっていると、人が病気になったり介護が必要になったりしたとき、医療では解決しないことをしばしば経験します。家族や地域のサポート、学校・職場環境、経済的負担や医療制度など、地域の問題を解決できる政治の力も必要なのです。地域の保育・教育や福祉の問題に取り組んでこられたのずえさんに期待しています。



久地駅ふみ切りで子どもたちの見守り活動をする、のずえ明美（正面右から2人目）

## 新型コロナウイルス感染症 —子どもたちの教育環境改善を—

まさか自分が生きている間に世界的パンデミックを体験するとは、とだれもが思ったことでしょう。感染拡大により多くの命が奪われ、私たちの生活は激変しました。仕事や収入を失い、ワクチン接種にふり回され、検査さえ受けられない状況等々。

とりわけ子どもたちの教育環境が気がかりです。子どもたちは、突然の休校にはじまり、身体接触を避けた学校生

先輩党员のように日本共産党の旗を担いでいきたいと覚悟ができました。

活、黙食、オンライン授業、学級閉鎖等々、新型コロナウイルスのために教育を受ける権利を奪われてしまいました。

以前より求められていた少人数学級は、新型コロナウイルス感染症によって、より必要性が明確になりました。少人数学級を早急に実現するとともに、それを支える教育環境の改善を強く求めています。

## 赤ちゃん、高齢者の見守り、 久地駅ふみ切りでの 児童・生徒の登校見守り —地域でのボランティア活動—

地域の身近な相談者としての活動は、赤ちゃん訪問、ひとり暮らしの高齢者の見守り、災害時の要援護者訪問等々です。久地駅前踏切りの児童生徒の登校見守りも、安心して暮らせる地域づくりにつながるようにと、と取り組んでいます。

ボランティア活動によって身近な暮らしの中から様々な要求が見えてくると考え、地域住民としての視点を大切に持っていようと、つねに思っています。

また、新型コロナウイルス感染症により、地域での子育てサークル活動が開けなくなってしまうと。そこで、オンラインでの子育てサークルを、地域の子育てに関心のある方々と2020年5月から毎月実施しています。毎月様々なテーマでおしゃべりをしたり、講師による学習会をしたりと、私自身も楽しみながら刺激を受けています。コロナ禍のもとでのつながり方を、今後の活動に活用できればと考えています。



## 保育施設の職員として

横浜市鶴見区にある、あけぼの共同保育所の事務職として働いてきました。働く保護者を支える保育施設は、子どもの発達を保障する大切な場所でもあります。

入所の相談を受ける中で、保護者の方々のおかれている様々な困難を知ることがあります。その困りごとに寄り添って支援をしています。保護者の方々は仕事と子育てを両立させる生活に必死です。非正規雇用の問題を含めた働き方、女性に家事や育児の負担が多い、などの

問題は以前からありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、より深刻になっています。

そして保育所で働く保育士も疲弊しています。感染対策と保育内容を工夫する毎日ですが、大きな役割に見合った賃金の保障はなく、離職する保育士が後を絶ちません。保育士の国の配置基準も少ないといった保育制度の問題も、働きがい失つてゆく原因となっています。

保護者も保育士も誰もが働くことを喜びとし、安心して暮らせる賃金が必要だと思います。

## 気候危機打開、ジェンダー平等社会をめざして

大災害が多発する中、気候危機打開は緊急の課題です。地球や子ども達の未来のためにもCO2削減への思い切った緊急行動が必要です。日本共産党は省エネ再エネで2030年までにCO2排出を50%〜60%削減する具体的な提案をしています。横須賀への石炭火力発電所の建設中止に力を合わせます。

男女の賃金格差は生涯で1億円と驚きです。企業に格差是正を促すことが重要です。女性が多く働く介護・福祉・保育の賃金の引き上げや非正規から正社員への流れをつくることも求められています。選択的夫婦別姓やLGBT平等法の実現や痴漢ゼロ等々、ジェンダー平等社会をめざしていきます。

## 議会ですぐに力を発揮できる人

神奈川県議会議員 石田和子

2023年の県議選で、のずえ明美（野末あけみ）さんにバトンタッチさせていただくことになりました。1999年の川崎市議会に続き、2019年には神奈川県議会へ、みなさまの大きなお力で送っていただき、今日まで活動させていただきました。みなさまに支えていただいたことに心から感謝を申し上げます。残り任期を議会と地域活動に頑張つてまいります。

のずえ明美さんは、久地駅前で、踏切を渡って登校する子どもたちの安全、見守り活動を仲間とともに毎朝続けてきました。また、住民の福祉や子育ての相談にのるボランティア活動や子どもの医療費助成制度拡充の願い実現に力を尽くし、

行政にもしっかり発言してきました。地域を大切にするとともに、医療と保育の現場で働いてきたのずえさんは、議会ですぐに力を発揮できる頼もしい人です。

この間、住民の皆さんと一緒に、畑野君枝前衆議院議員、宗田裕之、小堀祥子の両市会議員と県会議員の石田和子が連携して取り組み、上作延地内の平瀬川護岸の耐震化工事に国の補助金が交付され、台風19号の平瀬川の多摩川合流部の水害対策について、県は「多摩川水系平瀬川ブロック河川整備計画」を策定しました。共産党は引き続き市民の願い実現のために連携して取り組みます。みなさんの大きなご支援をよろしく願います。

来年の県議選で  
必ずバトンタッチを





## の ずえ 明美の 県政 政策

- ◎ 保健所体制を強化し、感染症対策や公衆衛生を充実させる
- ◎ 病床数、医師数、看護師数を増やし、医療提供体制を充実させる
- ◎ 県の小児医療費助成を 通院も 中学卒業まで実施
- ◎ 高い国保料(税)の引き下げ、均等割をなくす
- ◎ 介護、保育、学童保育などに携わるエッセンシャルワーカーの待遇を抜本的に改善し、体制の強化を図る
- ◎ 最低賃金は時給1500円に リストラから雇用を守るとりくみ強化を
- ◎ 多摩川と合流する平瀬川の浸水対策を住民の合意を得ながら進める
- ◎ 県営住宅、県立高校の老朽化対策をすすめる
- ◎ 気候危機打開へ県が太陽光発電の普及・補助金充実を
- ◎ ジェンダー平等を県政につらぬく
- ◎ 環境対策、検疫の強化などのために日米地位協定の抜本改正を
- ◎ 「核も基地もない平和なかながわ」のとりくみ強化

写真：夕暮れの多摩川

### 明るく元気な明美さんに 未来を託します

母・産婦人科医師 野末悦子さん



多忙な夫と3人の育ち盛りの子どもを抱え、それだけでも大変でように、石田和子さんの議席を引き継ぐ決意をしたことに驚くとともに、喜びの気持ちでいっぱいです。

いつも明るく元気な明美さんに子ども達の未来を託します。私も産婦人科医師として精いっぱい応援します。頑張れ!!

「県議会はある意味国会よりも遠く感じる」。以前、住民から言われた言葉です。

県政の役割としては、県立高校、県営住宅に関する施策。交通安全施設の整備など神奈川県警察に関する施策。河川整備や急傾斜地対策などの防災対策が、住民に身近なものとして取り上げられます。

また、コロナ禍の中で県の保健衛生、中小企業支援の行政は非常に注目さ

れ、その役割の大きさが知られたと思います。

そのような県政の役割の中で、日本共産党県議団としてこの間重視して取り組んできたのは、住民の切実な要望を実現するために市町村を支援する県政を実現することでした。神奈川県政は、小児医療費助成では関東近県で最も低くなっており、川崎市の助成を拡充する上でも県の役割は重要です。国民健康保険料の軽減、中学校給食への支援など、県の財政力を発揮し、市町村を応援することです。

市政、県政、国政が一体となって取り組んでこそ住民の要望実現につながります。

県政に対する関心を広げ、必ず石田和子県議の議席を、のずえ明美さんに引き継いでもらうようご支援をよろしくお願いいたします。



日本共産党神奈川県議団長

井坂新哉

住民の要望実現のために県政が果たす役割



## ロシアのウクライナ侵略に強く抗議。 「国連憲章まもれ」で全世界が団結を。

私たちは、ロシアのウクライナ侵略に強く抗議しています。いま大事なのは、国際世論によるロシア包囲です。国連では、加盟国の圧倒的多数＝140カ国以上が、ロシア断罪の決議に賛成しています。この流れをさらに広げることこそ、侵略を止める最大の力です。「ロシアは侵略をやめろ」「国連憲章をまもれ」の一点で、全世界が団結し、戦争を終わらせましょう。



ロシアのウクライナ侵略に強く抗議する、のずえ明美（左から2人目）、石田和子県議（同3人目）＝2022年3月、高津区溝の口駅前デモ

## 党をつくって100年、反戦・平和をつらぬく日本共産党。 旧ソ連の覇権主義に断固反対し、干渉攻撃をはねのけた自主独立の党です。

日本共産党は、党をつくって100年、反戦・平和をつらぬいてきました。旧ソ連が行った、1968年のチェコスロバキアへの侵略、79年のアフガニスタンへの侵略などに対して、社会主義とは縁もゆかりもない覇権主義だと、断固反対を貫いた自主独立の党が日本共産党です。

ソ連の党からの乱暴な干渉の攻撃も、すべてノ

はねのけて、1991年にソ連共産党が解散したときには、「覇権主義の巨悪の党がなくなったことに、もう手をあげて歓迎します」という声明を出したのが、日本共産党です。

## 岸田首相の「敵基地攻撃能力」—— 「軍事対軍事」の危険な道を許さない。 日本を核戦争にみちびく維新の会の 「核共有」提言は撤回を。

岸田首相は、「敵基地攻撃能力の保有検討」を言い出しています。危機に乗じて憲法9条を改定し、日本を「軍事対軍事」の危険な道に引き込む動きを断固として止めましょう。

とくにひどいと思うのは、維新の会が、アメリカと日本で核兵器を共有する議論を始めようという「提言」を出したことです。これには、日本被団協のみなさんが、「日本国民を核戦争に導き、命を奪い国土を廃墟と化す危険きわまりない提言」だと批判し、その撤回を求めました。

核兵器を使わせない唯一の保障は、全世界から核兵器をなくすことです。核兵器禁止条約への参加こそ、日本が選択すべき道です。

## 戦争の心配ない東アジアへ 憲法9条をいかす平和外交を

日本共産党は、東アジアに平和をつくる「外交ビジョン」を提案しています。ASEAN——東南アジア諸国連合と協力し、日本、米国、中国を含む18カ国でつくる東アジアサミット(EAS)の枠組みを活用・強化して、東アジアを平和と協力の地域にしてい、憲法9条を生かした平和外交をすすめましょう。

のずえ明美 検索

### あなたの「？」におこたえします 日本共産党 綱領の話



リーフレットが読めます



川崎市議  
むねた 裕之



川崎市議  
小堀 しょうこ

私たちもいつしよに  
がんばります